

(別添1)

No.	
策定年月	令和3年4月
見直し年月	令和〇年〇月

麦・大豆生産性向上計画

兵庫県

1. 麦・大豆の生産性向上に向けた方針

(1) 麦・大豆の生産性向上・産地強化に向けた方針

兵庫県は、耕地面積の90%以上を水田が占めており、水田の6割には主食用米と酒造好適米が作付されている。その他の作物では、野菜が耕地面積の15%で作付されているほか、加工用米、飼料用米や飼料作物、大豆、麦等が生産されている。

平成30年産からの米政策の見直しに伴い、これまで以上に需要に応じた米生産を進めることが重要になっている。加えて、水田面積を維持し、農業経営の安定化を図るためには、野菜等園芸作物の作付を進めるとともに、需要と直結した麦・大豆等の戦略作物の生産を推進する必要がある。

麦・大豆の生産拡大に当たっては、基本技術の徹底による単収の安定と実需者が求める品質の確保を進める。あわせて、農業者の高齢化が進み、生産者数が減少傾向にある中で生産量を確保するため、作業の効率化等による生産性の高い産地づくりを推進していく。

現在、兵庫県においては、兵庫県水田フル活用ビジョンにより水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、水田農業の更なる活性化を図っていく。

(2) 県で推進する団地の基準等

兵庫県においては、作業効率等を考慮し、「団地」は4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地とする。ただし、麦・大豆産地生産性向上計画において団地の基準を定めている地域においては、その基準を満たしたものを団地とする。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

○麦については、小麦は製粉用(菓子・麺・パン等)や醤油醸造用として、県内事業者販売されている。六条大麦は麦茶用として県内外の事業者へ、裸麦は県内の食品加工会社等に販売されている。小麦と裸麦は、実需者からの購入希望数量に販売予定数量が足りていない状況にある。六条大麦はR元・2年産で連続して豊作となったことから、R3年産においては販売予定数量が購入希望数量を大幅に上回る結果となったため、実需者の購入希望数量に合わせて販売予定数量を下方修正し、小麦・飼料作物への作付転換を図っている。

小麦と大麦については、実需者からタンパク質含量の確保等、品質の向上も要望されている。

○普通大豆については、サチユタカ、たつまる、こがねさやか、夢さよう、あやこがね等が栽培されており、主に豆腐や醤油、味噌等の原料として販売されている。黒大豆については、丹波黒大豆が県内の広い地域で生産されており、生豆として流通しているほか、煮豆等の加工品の原料にも使われている。

県内の実需者から、県産大豆の取扱拡大を要望されているが、生産量は近年減少傾向にある。

※ 麦については、直近の民間流通連絡協議会における販売予定数量と購入希望数量がわかる資料を添付すること。

(2) 生産における現状と課題

近年、作付面積は麦については横ばい、大豆については減少傾向で推移している。単収は、天候の影響による増減があり、麦については直近2年はかなりの豊作となったが、大豆は低下傾向で推移している。

単収低下の要因としては、排水不良による病害等の発生、難防除雑草の繁茂、連作等による地力の低下等が考えられる。これらの課題を克服し、収量を向上させるためには、排水対策や雑草対策等基本技術の徹底、堆肥施用等による地力の回復、土壌改良資材の施用による収量向上技術を確立させる必要がある。

さらに、近年は、担い手への農地の集約が急速に進み、1経営体あたりの作業面積が拡大することによって適期作業ができず、このために単収が低下している場合もあることから、作業の効率化を図るためにスマート農業の導入や作付の団地化等の推進も必要となっている。

(3)実績

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦	シロガネコムギ	(不明) 849	(不明) 798	(不明) 747	(不明) 141	(不明) 211	(不明) 211	(不明) 1,196	(不明) 1,683	(不明) 1,573
	せときらら	(不明) 16	(不明) 170	(不明) 155	(不明) 201	(不明) 311	(不明) 322	(不明) 33	(不明) 529	(不明) 500
	ゆめちから	(不明) 263	(不明) 265	(不明) 305	(不明) 189	(不明) 424	(不明) 387	(不明) 497	(不明) 1,123	(不明) 1,181
	ふくほのか	(不明) 343	(不明) 340	(不明) 313	(不明) 188	(不明) 306	(不明) 248	(不明) 646	(不明) 1,039	(不明) 777
大麦	シュンライ	(不明) 426	(不明) 419	(不明) 437	(不明) 197	(不明) 414	(不明) 404	(不明) 838	(不明) 1,734	(不明) 1,764
	米澤モチ2号	(不明) 34	(不明) 37	(不明) 38	(不明) 231	(不明) 272	(不明) 289	(不明) 78	(不明) 101	(不明) 110
	キラリモチ	(不明) —	(不明) 23	(不明) 84	(不明) —	(不明) 268	(不明) 194	(不明) —	(不明) 62	(不明) 163
その他	(不明) 399	(不明) 260	(不明) 271	(不明) 146	(不明) 189	(不明) 174	(不明) 582	(不明) 490	(不明) 472	
作物計 (国統計の4麦計データ)		(不明) 2,330	(不明) 2,310	(不明) 2,350	(不明) 166	(不明) 293	(不明) 278	(不明) 3,870	(不明) 6,760	(不明) 6,540

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)
大豆		(不明) 2,680	(不明) 2,500	(不明) 2,220	(不明) 101	(不明) 64	(不明) 81	(不明) 2,710	(不明) 1,600	(不明) 1,800
作物計		(不明) 2,680	(不明) 2,500	(不明) 2,220	(不明) 101	(不明) 64	(不明) 81	(不明) 2,710	(不明) 1,600	(不明) 1,800

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

3. 課題解決に向けた取組方針・計画

(1)取組方針

①需要に応じた生産と販売の実現

小麦については、単収向上の取組により実需者の要望に応える生産量を確保するとともに、タンパク質含有率の高位安定化に向けた施肥体系の確立・普及を進め、品質の向上を図る。六条大麦については、小麦等への作付転換や新たな需要の開拓により、ミスマッチを解消する。裸麦については、実需者の要望に応じた品種の生産と、収量の安定を図る。

大豆については、基本技術の徹底により単収向上を図るとともに、気象変動に強い栽培体系の確立・普及に取り組むことにより生産量を増加させる。また実需者等と連携し、病害等抵抗性や多収性を供えた新たな品種の導入を検討する。

②団地化の推進

人・農地プラン等による農地集積の推進と連携しつつ、麦・大豆の団地化に向けた話し合いを推進する。土壌・排水条件・作業の効率化等を勘案した団地化の推進に向けた計画を各産地が作成できるよう支援する。

③土づくり

地力の回復に向けては土壌診断の実施と結果に基づいた施肥を推進する。

④栽培の効率化

地域の営農条件等に適応したスマート農業技術の実証を進めるとともに、スマート農業機械の導入を支援し、栽培の効率化を進める。

※ ①需要に応じた生産と販売の実現、②団地化の推進について必ず記載する。

3. 課題解決に向けた取組方針・計画

(2) 計画

① 生産量

作物名	品種名	令和2年産(現状)			令和9年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
小麦	シロガネコムギ	(不明) 747	(不明) 186	(不明) 1,392	(不明) 790	(不明) 205	(不明) 1,620	現状の単収、生産量は過去7中5平均
	せときらら	(不明) 155	(不明) 322	(不明) 500	(不明) 170	(不明) 348	(不明) 592	
	ゆめちから	(不明) 305	(不明) 305	(不明) 931	(不明) 325	(不明) 335	(不明) 1,089	現状の単収、生産量は過去7中5平均
	ふくほのか	(不明) 313	(不明) 239	(不明) 750	(不明) 325	(不明) 263	(不明) 855	現状の単収、生産量は過去7中5平均
大麦	シュンライ	(不明) 437	(不明) 263	(不明) 1,148	(不明) 357	(不明) 288	(不明) 1,028	現状の単収、生産量は過去7中5平均
	米澤モチ2号	(不明) 38	(不明) 209	(不明) 80	(不明) 38	(不明) 230	(不明) 87	現状の単収、生産量は過去7中5平均
	キラリモチ	(不明) 84	(不明) 194	(不明) 163	(不明) 85	(不明) 254	(不明) 216	
その他		(不明) 271	(不明) 174	(不明) 472	(不明) 270	(不明) 191	(不明) 516	
作物計		(不明) 2,350	(不明) 211	(不明) 4,963	(不明) 2,360	(不明) 232	(不明) 5,486	現状の面積は国統計値(兵庫県)

作物名	品種名	令和元年産(現状)			令和8年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
大豆		(不明) 2,220	(不明) 81	(不明) 1,800	(不明) 2,505	(不明) 104	(不明) 2,605	
作物計		(不明) 2,220	(不明) 81	(不明) 1,800	(不明) 2,505	(不明) 104	(不明) 2,605	

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

※ 現状値は、計画策定時に数値が把握できる直近の年産を記載する。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

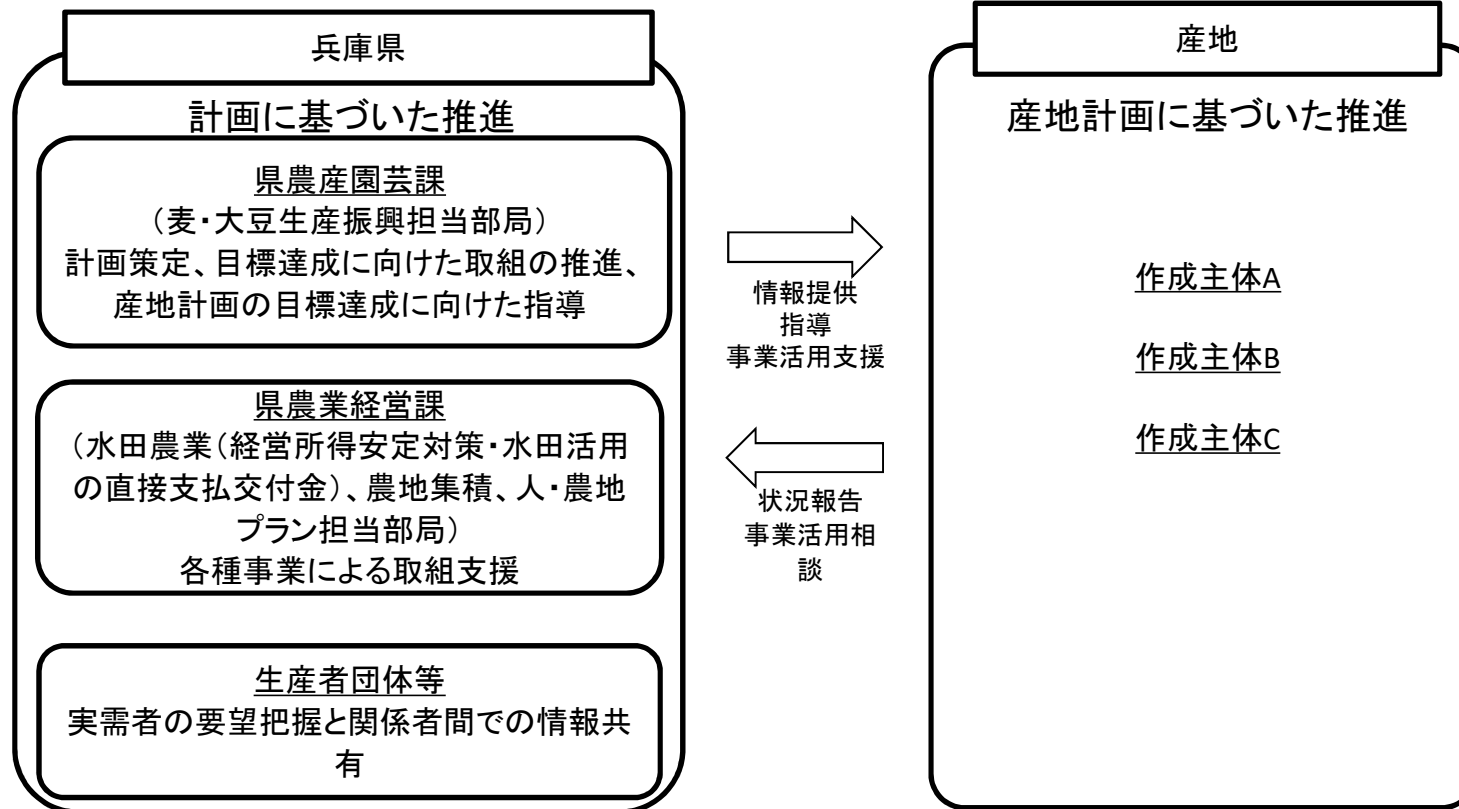
※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 直近年が災害等により直近年の記載が適当でない場合は、現状値を7中5とすることが出来る。その場合備考欄に明記すること。

※ 作付面積、生産量以外の目標を設ける場合は適宜行を追加して記載すること。

4. 推進体制及び役割

(記載例)



5. 他計画・プラン等との連携

	連携する計画・プラン等名称	作成年	備考
1			
2			
3			
具体的連携内容			

6. 活用予定の事業

関連	事業名	備考

※県段階で想定している事業名について、記載すること。

※別紙第6の事業に該当する場合は、「○」を記載すること。その他の事業を活用する場合は「-」。

※備考欄には、活用する時期や具体的な取組内容を記載すること。

7. 麦・大豆産地生産性向上計画の作成主体

No	作成主体名	関係市町村	活用予定の事業
1	作成主体A	三木市	水田麦・大豆産地生産性向上事業
2	作成主体B	福崎町	水田麦・大豆産地生産性向上事業 産地生産基盤パワーアップ事業 多面的機能支払交付金事業
3	作成主体C	たつの市	水田麦・大豆産地生産性向上事業

※ 各主体が作成した「麦・大豆産地生産性向上計画」を添付すること。

(別添 2)

No.	1
策定年月	令和3年4月
見直し年月	令和〇年〇月

麦・大豆産地生産性向上計画 A地区 (作成主体:作成主体A)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

当地区は、播州平野の東、六甲山の北に位置し、東西に開ける丘陵地の谷間に水田が拓かれている。瀬戸内気候で年間降水量は1165mmと少ない。昼夜の温度差(日格差)が大きく、日照時間は多い。

水利は、基本ため池で確保しているが、国営東播用水から水の供給を受けるようになり、夏の水不足の心配が無くなった。土壌は、第三期洪積土層モンモリロナイト系粘土鉱物を組成とする粘質土壌である。

全耕地面積に対して酒造好適米山田錦の作付割合が約6割を占める山田錦の特A地区の産地である。

特に、新型コロナウイルスによる日本酒の国内外の需要が減少する中で、山田錦に代わる地域特産物を育成する必要がある。そのような中、今後の需要が拡大基調で、地域の気候土壌に適した収益性のある作物として丹波黒大豆の生産を拡大する。

丹波黒大豆の生産拡大にあたっては、収量・品質の向上を支える作業精度と効率的作業を可能とする生産の機械化一貫体系の構築により、生産性の高い丹波黒大豆生産を推進・確立していく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

当地域で生産している大豆の品種は、丹波黒大豆で、一部若莢を枝豆として販売しているが、ほとんどは黒豆用としてJAを通し、県内の卸問屋に販売している。丹波黒大豆は、JAの生産振興作物に位置づけられ、管内全域で約50haの作付けがある。実需からの要望を生産量が満たしておらずさらに増産を図る必要がある。

作成主体Aも平成10年から丹波黒大豆の栽培に取り組んできたが、近年、生育が不安定で収量・品質ともに低位平準化しつつある。現在、JAの黒豆部会に加入し、栽培技術の研究、改善による収量・品質の向上をめざしている。

新型コロナウイルスによる影響で、山田錦の契約量が大きく削減されるという点においても、丹波黒大豆の面積拡大を積極的に考えていく必要がある。

(2) 生産における現状と課題

近年の丹波黒大豆の作付面積は、地域で発生した大規模な地滑りとその復旧工事より、減少しており、単収、品質については安定していない現状がある。

単収低下の原因として挙げられるのは、①作付頻度の増加による地力低下 ②ハト等の食害による欠株の発生、③均一な畝立・整地ができていない ④適期に適切な中耕培土ができていない ⑤カメムシ等病害虫の多発生が考えられる。

収量を向上させるためには、土壌診断に基づいた適正な施肥や土壌改良資材の施用等による地力の回復が課題となっている。さらに、排水不良も雨量の多い年には単収低下の大きな要因となっており、改善が必要となっている。

特に、丹波黒大豆は、最初低い畝立てを行い播種(定植)を行い、7月中旬、7月末の2回中耕培土を実施し、高畝としている。播種時の畝立整地作業は、十分経験のあるオペレーターでも畝が曲がり、狭くなったり広くなったりする。そうすると中耕培土を行うときに黒大豆を傷つけたり、場合によっては削ってしまい欠株が発生する。狭いところは中耕培土ができず、生育が劣ったり、倒伏による減収、品質低下につながっている。そのため、積極的にスマート農業技術を活用した農機具を導入し、作業精度、省力化、生育の均一化、強いてはオペレーターの育成も視野に入れる必要がある。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		○年産	○年産	○年産(現状)	○年産	○年産	○年産(現状)	○年産	○年産	○年産(現状)
小麦										
大麦										
作物計		(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
大豆	丹波黒	3.36	1.95	2.28	52	149	197	1.74	2.91	4.49
作物計		3.36	1.95	2.28	52	149	197	1.74	2.91	4.49

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

作物名	品種名	○年産		○年産		○年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦								
大麦								
作物計		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	丹波黒	3.20	95.2%	1.76	90.3%	2.14	93.9%	
作物計		3.20	95.2%	1.76	90.3%	2.14	93.9%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

兵庫県においては、「団地」は4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地としているが、当該地域においては、水田フル活用ビジョンにおいて団地を「2ha以上の連坦団地又は、1ha以上の団地が2つ以上あること」と定められてきた。そのため、ここに記載する団地化の実績については、従来の水田フル活用ビジョンに定められた要件を満たす生産者が作付けしていた実績を記入している。また、今後の作付け目標においては、兵庫県の基準に基づき、4ha以上の団地を構成できるよう努める。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。

(別添2)

No.	2
策定年月	令和3年4月
見直し年月	令和〇年〇月

麦・大豆産地生産性向上計画 B地区 (作成主体:作成主体B)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

福崎町は、全耕地面積に対して主食米の作付割合が約4割を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、脱米作の品目として麦・豆類ほか園芸野菜等の導入を図り、多品目栽培により米価収入に頼らない経営の安定を目指すため、麦・大豆の生産を拡大をする必要がある。

麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手への農地集積が急速に進む中で、効率的な作業を可能とする生産性の高い麦・大豆の産地づくりを推進していく。

また、需要と密接に連携し需要が安定的に拡大基調である品種へ生産を移行し単収の向上を図る。

現在、福崎町の水田フル活用ビジョンにおいて水田フル活用の推進に取り組んでいるが、当地区も本計画において、水田フル活用への取り組みを構築するとともに麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取り組みをより具体化し、関係者、関係機関の連携を強化し農業の更なる活性化を図っていく。

麦大豆は土地利用型農業を進める上で米と並ぶ重要な作物である。県内の食品業者と結びついた高タンパク小麦の契約栽培や、醤油醸造会社へ県産の品質の優れた麦・大豆を安定供給に取り組む。

福崎町特産のもち麦(新品種フクミファイバー)の増産に取り組む、特色ある麦づくり、大豆づくりを目指し安全で安心な麦大豆を安定的に供給し、経営体の安定収入を確保する。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

麦については、本地域内でパン用の高タンパク小麦(せときらら)を約15ha栽培し、約50～60tを県内の製粉企業へ販売している。せときららは多収のためタンパク含量が上がりにくいという特性を持つことから、タンパク含有量が少なく需要者から質の向上を求められているのが現状である。よって、せときららから、県内の醸造会社から要望のある醤油醸造用の小麦(ゆめちから)に一部切り替え、合わせて醤油醸造用の大豆の生産に取り組む。

また、福崎町特産のもち麦(米澤モチ2号)を約3ha栽培し、約10tを福崎町内の食品加工会社へ精麦、加工用として販売している。当地区が以前から品種登録実証圃として取り組んでいたもち麦(フクミファイバー)は食物繊維が従来品種より多く含まれ、新品種としての注目が集まり、地域でも高評価を得ている。種子についての問い合わせもあり、需要が見込まれる。

生産性の高い小麦(せときらら)、安定性の高い小麦(ゆめちから)、機能性の高いもち麦(フクミファイバー)と多品種の麦生産を目途とする。

(2) 生産における現状と課題

近年、小麦栽培では、ミナミノカオリからせときららへと移行してきた。せときららはパン用小麦であり、高タンパクが求められるが収量とのバランスを取るのが難しいため、安定してタンパク含量を確保する施肥方法等を検討する。またせときらら一辺倒では適期収穫が難しいため、せときららよりも熟期が遅く、タンパク含量が高い醤油醸造用のゆめちからへ一部移行を行う。

はだか麦(もち麦)は、米澤モチ2号を栽培してきたが、肥培管理が難しく、倒伏も多く収穫作業が困難なことも多々ある。一方で、当地区栽培のはだか麦(もち麦)フクミファイバーは肥培管理がしやすく、倒伏も少なく収穫作業も問題なく行うことができるため、収量も安定する。このため、フクミファイバーの栽培面積を今後増やしていく。

大豆については、令和3年より県内の醸造会社から要望がある醤油醸造用大豆の栽培を予定しているが、畑作適地としての土壌改良、耕耘、たい肥散布、改良資材の投入等を計画的に行いより一層の排水対策を講じていく。

麦・大豆については、播種から収穫まで機械化による作業を基本的に考え手作業は極力減らし作業の省力化効率化を目指す。また、高性能なコンバインの導入により適期収穫を実現し、収量を安定させる。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)						単収の推移(kg/10a)						生産量(t)					
		平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)	
小麦	ミナミノカオリ	(12.46)	12.57	(0.00)	0.00	(0.00)	0.00	(235)	235	(0)	0	(0)	0	(29.28)	29.54	(0.00)	0.00	(0.00)	0.00
	せときらら	(0.00)	0.00	(14.57)	14.68	(15.70)	15.80	(0)	0	(400)	400	(296)	296	(0.00)	0.00	(58.28)	58.72	(46.47)	46.77
	ゆめちから	(0.00)	0.00	(0.00)	0.00	(0.00)	0.00	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0.00)	0.00	(0.00)	0.00	(0.00)	0.00
はだか麦	米澤2号	(5.09)	5.09	(3.08)	3.08	(3.25)	3.25	(216)	216	(300)	300	(380)	380	(10.99)	10.99	(9.24)	9.24	(12.35)	12.35
	フクミファイバー	(0.29)	0.29	(0.75)	0.75	(1.12)	1.12	(278)	277.6	(240)	240	(370)	370	(0.81)	0.81	(1.80)	1.80	(4.14)	4.14
作物計		(17.84)	17.95	(18.4)	18.51	(20.07)	20.17	(230)	230	(377)	377	(314)	314	(41.08)	41.34	(69.32)	69.76	(62.97)	63.26

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)						単収の推移(kg/10a)						生産量(t)					
		平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)	
大豆	-	(0.09)	0.09	(0.00)	0.00	(0.00)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	(0.00)	0.00	(0.00)	0.00	(0.00)	0.00
作物計		(0.09)	0.09	(0.00)	0.00	(0.00)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	(0.00)	0.00	(0.00)	0.00	(0.00)	0.00

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	ミナミノカオリ	6	48.2%	0	0.0%	0	0.0%	
	せときらら	0	0.0%	5	34.3%	9	57.3%	
	ゆめちから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
はだか麦	米澤2号	3	58.9%	3	97.4%	3	92.3%	
	フクミファイバー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
作物計		9	50.4%	8	43.5%	12	59.8%	

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	-	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
作物計		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

兵庫県においては、「団地」は4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地としているが、当該地域においては、中山間地域であるため、4haを2haと変更し団地化率を算出する。なお、事業実施地区においては、ほ場整備により栽培管理が一体的にでき、かつ、農作業が一連の流れで実施できるように農道等が整備されていることから、完全に隣接していないほ場であるものの、湿害回避、適期作業徹底等の効果が見込まれるほ場のかたまりについては、まとまりのある団地とする。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。

(別添 2)

No.	3
策定年月	令和3年4月
見直し年月	令和〇年〇月

麦・大豆産地生産性向上計画 C地区 (作成主体:作成主体C)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

当地区は、全耕地面積に対して主食米の作付割合が約5割を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、加工用米等の生産拡大、高収益作物の導入等と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。

また、生産者だけでなく実需者の地元醤油製造業者・JA・たつの市とも密接に連携し、地元醤油製造業者が醤油の生産に使用する高たんぱく小麦の育成に一丸となって取り組んでおり、より生産性・品質の高い品種への移行も視野に入れ、生産量の安定を実現する。

現在、当地区においては、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

麦について

当地区で生産している品種「ゆめちから」は、全量が地元醤油製造業者の原料用に提供されているが、2千トンの需要があり、安定的な供給、高品質な生産が求められている。当地区における栽培当初の単収推移は300kg台だったが、過去5年単収推移は400kg台と長期的には増加傾向となっているが、実需者からの要望を満たすためには、安定的な生産および単収増加を図る必要がある。

大豆について

当地区で生産されている品種「たつまる」は、全量が地元醤油製造業者の原料用に提供されているが、5百トンの需要があり、安定的な供給、高品質な生産が求められている当地区では、栽培当初から去年まで単収は150kg前後で推移している。実需者からの要望を満たす為、さらなる生産量増加を図る必要がある。

(2) 生産における現状と課題

当地区において、H30年度、R1年度は、他地域のほ場整備等の影響からやむなく当該地域での麦の作付面積が増加(連作)したが、通常、病害等の発生や連作障害を考慮し、稲・麦・大豆の2年3作ローテーションにて作付している。

麦について

単収は、長期的には増加傾向だが、安定した単収をえることができていない。その原因として、農地の集積が十分にできておらず、また、現在所有するコンバイン1台の運用では適期収穫が十分にできていないことが考えられる。そのため、当地区でのさらなる団地化の推進、機械の追加導入をすることにより、適期収穫を実施し単収の増加に取り組む。

大豆について

大豆の播種時期は、小麦の収穫作業の遅れの影響や梅雨時期とも重なり、播種時期が遅れ、このことが生産量に大きく影響している。そのため、小麦の収穫を適期に迅速に終えることで、大豆の播種を適期に行い、生産量の増加、高品質な大豆の生産に取り組む。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦	ゆめちから	13.70	13.80	10.80	258.00	512.00	414.00	35.35	70.66	44.71
大麦										
作物計		13.70	13.80	10.80	258.00	512.00	414.00	35.35	70.66	44.71

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)
大豆	たつまる	5.97	6.60	9.03	117.00	88.20	131.80	6.98	5.82	11.90
作物計		5.97	6.60	9.03	117.00	88.20	131.80	6.98	5.82	11.90

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	ゆめちから	10.20	74.5%	10.90	79.0%	9.20	85.2%	
大麦								
作物計		10.20	74.5%	10.90	79.0%	9.20	85.2%	

作物名	品種名	平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	たつまる	5.38	90.1%	4.70	71.2%	5.48	60.7%	
作物計		5.38	90.1%	4.70	71.2%	5.48	60.7%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

兵庫県においては、「団地」は4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地としているが、当該地域においては、中山間地域であるため、4haを2haと変更し団地化率を算出する。
 なお、事業実施地区においては、ほ場整備により栽培管理が一体的にでき、かつ、農作業が一連の流れで実施できるように農道等が整備されていることから、完全に隣接していないほ場であるものの、湿害回避、適期作業徹底等の効果が見込まれるほ場のかたまりについては、まとまりのある団地とする。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。